

IV-2

北海道における希少動物の交通事故発生状況について

田辺慎太郎 正員 (社) 北海道開発技術センター
 原 文宏 正員 (社) 北海道開発技術センター
 阿部 正明 (社) 北海道開発技術センター
 新森 紀子 (社) 北海道開発技術センター

1. はじめに

北海道は我が国の中でも手つかずの自然が残っている地域であり、貴重な動植物が数多く生息している。一方で北海道の旅客及び貨物輸送は、道路交通に依存する割合が高く、国鉄の民営化後はさらにその傾向が強まり、円滑な道路交通の確保が道内各地域の生命線を握っているといっても過言ではない。

そのため、自然環境の豊かな地域を道路が通過している箇所も多く、そこで野生動物のロードキル(野生動物と自動車の衝突事故)が発生している。特に大型は乳動物であるエゾシカとの衝突事故は、自然環境保護と交通安全の両面から課題となっている。また、このようなロードキルが、天然記念物や希少動物との間でも発生していることが新聞紙上等で目にもすることも少なくない。このような動物は、少ない上に絶滅が危惧されている種でもあることから現存する個体一つ、一つが貴重な存在である。しかし、このような希少動物や天然記念物とのロードキルに関する調査結果は少ないのが現状である。

本報告では、北海道における天然記念物及び希少動物のロードキルについて、希少野生動物の保護記録から現状をまとめるとともに有識者へのヒアリング等も含めて、その原因について考察する。

2. 天然記念物及び希少動物の交通事故

2.1 天然記念物及び希少動物の分類

天然記念物は、文化庁所管の「文化財保護法」に基づいて指定されており、特に貴重なものについては特別天然記念物とされている。また、希少種は環境庁が所管し「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づいて指定されている動物を指す。

表1 北海道に生息する天然記念物及び国内希少野生動物

区 分	種 名
特別天然記念物 〔国指定〕	タンチョウ
天然記念物 〔国指定〕	クマガイ・オオワシ・オジロワシ・エゾシマフクロウ・コクガン・マガン・ヒシクイ・イヌワシ
希少種 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づく国内希少野生動物	チシマウガラス・シジュウカラガン・オオタカ・イヌワシ・オジロワシ・オオワシ・クマタカ・ハヤブサ・タンチョウ・カラフトアオアシシギ・エトビリカ・ウミガラス・エゾシマフクロウ・ミュウゲラ・ワシミズク

Study on Threatened-Wildlife roadkill in Hokkaido.

By Shintaro Tanabe, Fumihito Hara, Masaaki Abe, Noriko Shinmori

北海道に生息する天然記念物及び希少動物に指定されている種の一覧を表1に示す。天然記念物9種（内特別天然記念物1種）、希少種15種類が指定されており、両方に指定されている動物が9種類ある。全て鳥類であり、丹頂、エゾシマフクロウや大型の猛禽類が指定されている。

2. 2天然記念物及び希少動物の保護状況

北海道は、天然記念物を含む国内希少種の保護活動について環境庁に報告するために保護経過を記録したデータを過去3年ほど集積している。これらのデータから希少種の交通事故等の現状を分析する。分析に使用したサンプル数は82件、年度別の件数を表2に示す。ただし、このデータは保護された動物だけを対象としており、発見時点で死亡していた動物は含まれていないことから、希少種の交通事故の一部を取り出しているにすぎない。

(1) 推移と地域性

平成9年度にやや多いが20件～40件の範囲で保護件数が推移している。保護件数の月別推移を図2に示す。2月～5月、9月、10月に多く、7月、8月に少ない。この結果だけから原因を特定することはできないが、7月、8月は捕食する動物や昆虫も多いことから、餌の量との関係が考えられる。地域的には、釧路、根室、網走の3支庁管内で半分以上を占めることから、これらの地域の生息密度が高いことと一致する。

表2 年度別保護件数

年	件数
8	20
9	37
10	25
合計	82

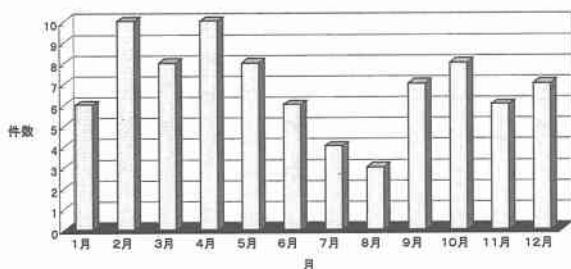


図2 月別保護件数



図3 支庁別保護件数割合

(2) 保護動物の内容と保護理由

動物別に保護件数を示したのが図4である。オオワシ、ハヤブサ、タンチョウ、オジロワシの順に多い。保護理由の多くは衰弱と負傷であり、その原因としては衝突、交通事故、捕殺等がある。保護理由別の割合を図4に示す。全体としては不明が53%であり、過半数は原因不明である。はっきりしている原因としては建物、電線等への衝突による負傷と交通事故がある。交通事故は全体の5%（4件）にすぎず、そのうち1件は列車との衝突事故である。ただし、不明の中には発見箇所や負傷の状態から交通事故による可能性が高い

と思われるものも 10 数件含まれていたことから、この数字だけで少ないとはいえない。原因で不明が多いのは、目撃証言などはほとんどなく、状況だけから推測するしかない現状にある。また、負傷したあとも動物は移動することから、交通事故かどうかを特定することも難しくなる。

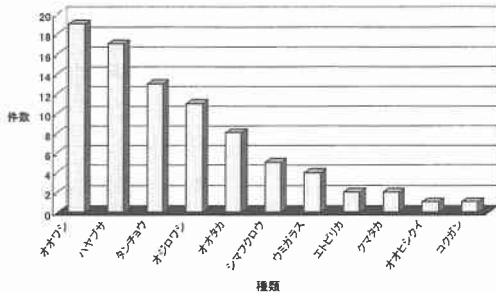


図4 種類別保護数

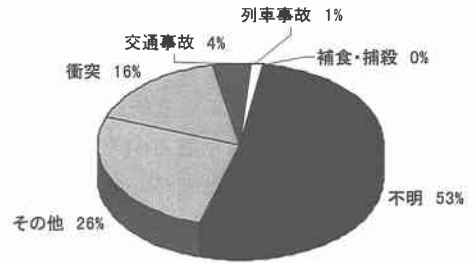


図5 保護原因

2. 3 交通事故原因と対策

保護された希少動物のうち、交通事故の可能性が高い4件を表3に示す。内容はオオワシが2件、シマフクロウ、オオタカがそれぞれ1件である。4件のうち3件は収容後、死亡している。いずれも、自動車と衝突したための骨折が原因の外傷性ショックやくちばしが折れて捕食できないことが原因の衰弱が理由で保護されている。

シマフクロウに関する現地調査と有識者ヒアリングによれば、釧路管内で国道44線を中心に7件の衝突事故が発生しており、その内5件が国道44号線であり、特にシマフクロウの生息数が多い地域を通過しているためと思われる。事故発生地点は、主に橋梁付近で河川に沿って移動するシマフクロウが橋梁付近で大型トラック等と衝突するケースが多い。また、上空から餌をさがす猛禽類にとって道路上は餌となる小動物や虫類等を確認しやすく、障害物もないため捕食しやすい環境にある。そのため、餌を捕捉するために道路上に舞い降りた時や餌を道路上で捕食している時に自動車と衝突する。

表3 交通事故による希少動物の保護

事故種類	支庁	年月日	保護地 住所	動物名	状況
列車事故	十勝	H10.2.21	浦幌町 常豊	オオワシ	負傷し飛べずにいるところを保護。十勝NOSAI東部事業所浦幌家畜診療所にて治療を行ったが約20分後に死亡。死因は上腕骨骨折による外傷性ショック
交通事故	網走	H10.1.18	興部町 沙流海岸	オオワシ	嘴側部、左羽根より出血。波をかぶり衰弱していたところを保護。大型車に接触後、海岸付近に降りたものと思われる。収容後死亡
	根室	H10.1.4	羅臼町 栄町	シマフクロウ	道路脇で飛べなくなっているところを住民が見つかり、釧路市動物園にて保護。飼養中(H10.1.6現在)
	胆振	H9.9.14	門別町 字厚賀	オオタカ	ウトナイ湖サンクチュアリセンターに収容後、9/16に職員が死亡を確認

現在、対策として橋梁上に多数の旗を設置して、シマフクロウが大型車両より高い位置を通過するような方策がとられており、一定の成果を上げていると聞いているが、景観的にはやや課題の残る対策である。また、道路上で捕食することへの対策等については、考慮されていないのが現状である。

3. まとめ

調査結果のまとめと考察を以下に行う。

- (1) 天然記念物及び国内希少野生動物のロードキルに関する事故データの記録は少なく、断片的に散在していると思われる。
- (2) 保護報告によれば、交通事故が原因で負傷した割合は、全体の5%程度と少ないが、原因不明の割合が高く、その中には交通事故と思われるものが相当数含まれており、原因の特定方法や技術の開発が課題である。
- (3) 交通事故の原因は以下の2点が大きな要因となっている。
 - ・河川に沿って移動するシマフクロウが橋梁付近で大型トラック等と衝突する。
 - ・道路上は餌となる小動物や虫類等を確認しやすく、障害物もないため捕食しやすいため、道路上に舞い降りた時や餌を道路上で捕食している時に衝突する。
- (4) 対策は、シマフクロウに対して橋梁上に旗を設置する方法が採られているが、他にはなく、事故原因の詳細な分析、希少動物の行動等を基に対策手法のバリエーションを広げる必要がある。

4. おわりに

天然記念物や希少動物の交通事故については、その現状すらわかっていない状況であり、基本となるデータの収集、蓄積がもとめられる。特に、天然記念物、希少種の所管する役所の違い、発見時点で生存しているか、死んでいるかでの所管の違い等があつて、情報が一元化されていないことから、まず情報の集約が重要であり、そのための体制整備を早急に求められる。

最後に調査時にヒアリング等でご協力を頂いた、シマフクロウの保護活動を行っている山本純郎氏に心から謝意を表する。

<参考文献>

- 1) 環境庁野生生物保護行政研究会編集：「絶滅のおそれのある野生動物種の国内取引管理」：1996
- 2) 環境庁編：平成9年版環境白書